

研究・調査報告書

報告書番号	担当
30	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Brief interventions for heavy alcohol users admitted to general hospital wards. 総合病院の病棟での重度アルコール飲酒者への簡易介入	
執筆者	
McQueen J, Howe TE, Allan L, Mains D, Hardy V.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Cochrane Database Syst Rev. 2011 Aug 10;(8):CD005191. Review.	
キーワード	
総合病院、重度アルコール飲酒者、簡易介入	
要 旨	
<p>目的： 簡易介入とは生活行動習慣を変化させることに着目した時間的制約のある介入を意味する。アルコール消費量を減少させるためのカウンセリング技能により重度アルコール飲酒者はしばしば動機づけられる。本研究ではこうした簡易介入がアルコール消費量を減少させてアウトカムを改善するか、総合病院の入院患者において検証する。</p> <p>方法： 本研究では Cochrane Drug and Alcohol Group Register of Trials (2011 年 3 月) と Cochrane Central Register of Controlled Trials (Cochrane 図書館 2011 年 3 月)、MEDLINE(1966 年 1 月-2011 年 3 月)、CINAHL(1982 年-2011 年 3 月)、EMBASE(1980 年-2011 年 3 月)、www.clinicaltrials.gov(2011 年 4 月まで)を調査した。全ての無作為対象試験(RCT)と比較対照試験が調査対象に含まれる。試験参加者は総合病院のアルコール治療を受けている大人か青年(16 歳以上)の患者であり、簡易介入(3 つ以内のセッション)を受けた者である。3 人のレビューワーが研究を抽出し、データを引用し、メタ解析と感応度解析を実施した。</p> <p>結果： 男性主体の 4041 名の被験者が参加した 14 の研究が該当し、6 か月後(MD -69.43 (95%信頼区間-128.14~-10.72))と 9 か月後(MD -182.88 (95%信頼区間-360.00~-5.76))に簡易介入を受けた患者群は対照群と比較してアルコール消費量が有意に減少した。しかしながら、1 年後にはこの傾向は持続していなかった(SMD -0.26 (95%信頼区間-0.50~-0.03))。さらに簡易介入を受けた群は対照群と比較して 6 か月後(RR 0.42 (95%信頼区間 CI 0.19~0.94))と 1 年後(RR 0.60 (95%信頼区間 CI 0.40~0.91))において死亡が有意に少なかった。また被験者の飲酒パターンについて聞き取りをした結果、アルコール消費量レベルと飲酒習慣の変化に関連性が認められた。</p> <p>結論： 本研究により、総合病院の病棟において簡易介入を重度アルコール飲酒者に行うことでアルコール消費量と死亡率の減少が示された。この結果は主に男性被験者においてわかったことであったため、さらに他の属性の被験者における状況や総合病院における治療法や理想的な指導内容について研究する必要がある。</p>	